

―特集―

災害から身を守るために

学ぼう！・備えよう！

近年、全国各地で毎年のごとく激甚化している自然災害。「もしも」の時に、自分や大切な人を守るためにできることを確認しておきましょう。

村は、災害から身を守るための防災情報や災害に関する知識をまとめた「昭和村防災の手引き」を配布しています。防災の手引きを活用し、きたるべき災害にしっかりと備えましょう。



災害に備える 3つのポイント

近年、全国各地でゲリラ豪雨や台風による豪雨災害や土砂災害が発生し、避難指示が発令されることが多発しています。これから迎える台風シーズンに備え、災害から身を守る3つの対策ポイントを確認しておきましょう。

1 適切な情報収集を行う

災害時に必要な情報は、テレビ、防災行政無線、スマートフォンなどから入手することができます。次に挙げられた方法などを活用し、自分に合った方法で情報を入手しましょう。

防災行政無線

村内26カ所の屋外スピーカーから防災情報を放送します。各地区の住民センターに「戸別受信機」を設置してあります。



雨量観測システム

村内4カ所に設置されている雨量観測の値をリアルタイムで確認できます。右記の二次元コードから閲覧できます。



緊急告知FMラジオ

防災情報の発信の際は、自動的に起動して防災情報が伝達されます。緊急時は非常用照明としても活用できます。



ひかり電話サービス

☎25-8008



聞き逃した防災行政無線の情報を確認することができます。同時に聞くことができるのは6人までですので、繋がらない場合、時間を空けてかけ直してください。

集めーる※

緊急情報、気象情報といった防災情報をメールで受信できます。登録は、次の二次元コードより申込みください。



防災ポータルサイト

県内の気象情報や土砂災害などの情報を確認できます。ライブカメラなどからリアルタイムの状況を確認できます。



※使用しているアドレスによって受信できない場合がありますので、ドメイン指定受信などの設定の確認をお願いします。

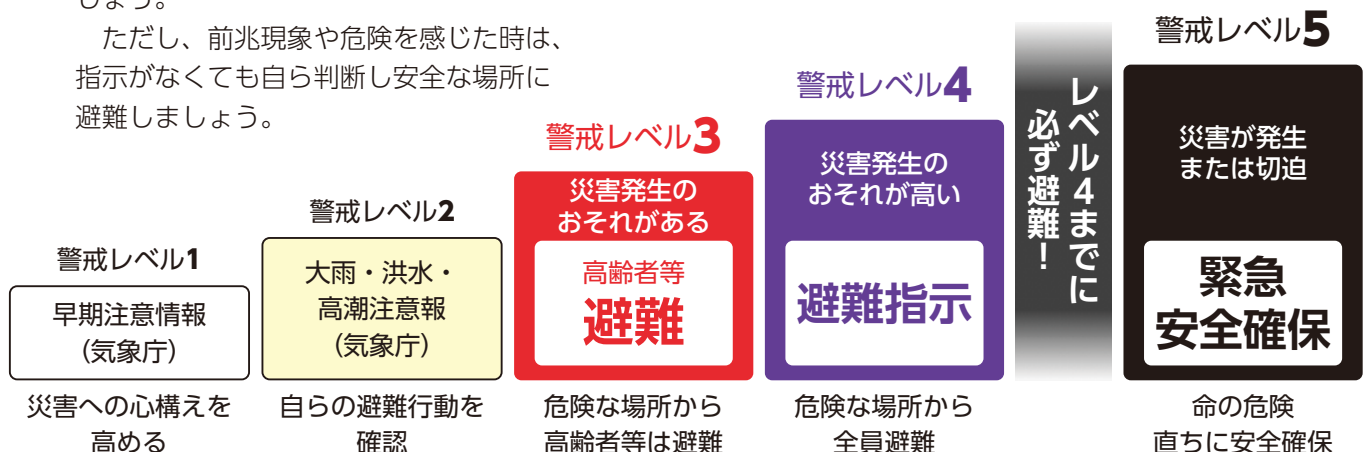
避難情報を理解する

手に入れた情報をもとに、自分や家族がとるべき行動を選択できるようにしましょう。事前に行動内容を決めておくことで、いざというときに慌てずに行動することができます。

警戒レベルに応じた行動

次に挙げた警戒レベルは、災害発生時にとるべき行動を5段階に分けて気象庁がお知らせするものです。警戒レベルに応じた行動を普段から確認しましょう。

ただし、前兆現象や危険を感じた時は、指示がなくても自ら判断し安全な場所に避難しましょう。



2 避難行動の確認をしておく

まずは、自宅近くの指定避難場所を確認しておきましょう。また、災害の状況に応じた避難場所を複数個考えておくことで、災害時に迷いなく行動に移すことができます。

次の「防災マップ」には、大雨による浸水場所などを想定したものと、土砂災害の危険がある場所を示しています。自宅がどのような時に被害を受けそうか、緊急時にどう避難するか「防災マップ」を見て、事前に確認しておきましょう。



指定避難場所

地区	指定避難場所
永井地区	永井住民センター
入原地区	入原住民センター
川額地区	南小学校体育館
森下地区	社会体育館
椋久保地区	昭和中体育館
糸井地区	公民館
	東小学校体育館
貝野瀬地区	貝野瀬構造改善センター
生越地区	生越スポーツ交流施設
中野地区	
大河原地区	大河原小学校体育館
長者久保地区	
追分地区	追分住民センター
赤谷地区	赤谷住民センター
赤城原地区	赤城原区民館
松ノ木地区	松ノ木第1住民センター
	松ノ木第2住民センター

※避難所は居住している地区に関わらず利用できます。

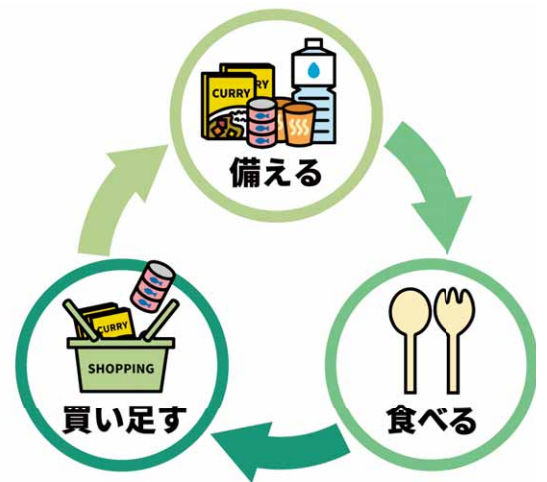
3 家庭内備蓄で災害に備える

避難とは「難」を避けることです。自宅が安全な場合は、自宅に留まることも避難となります。災害で電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備え、日頃から生活で利用している食料や飲料水、保存の効く食料などを備蓄しておきましょう。※1週間分の備蓄が望ましい。

ローリングストック法で備える

ローリングストック法とは、【蓄える⇒食べる⇒補充する】を繰り返しながら一定量の食糧を備蓄することです。

日常で使っているものを少し多く買い置きし、使ったら買い足す方法で無理なく備蓄を始めましょう。



いつもの「備え」が、いつかの「助け」に

▼問合せ 総務課防災安全係

☎25-3451

防災対策に十分や絶対に大丈夫といったことはありません。今回紹介した対策だけでなく、自宅周辺の災害リスクの認識と自分と家族にとって何が本当に必要なかを考え備えましょう。

自らの命を守るため、家族や周りの人たちの命を守るために、持ち出し品の準備、避難するときの心構えを持つなど、いざという時に備えましょう。

実際に災害が発生した時に被害をできるだけ少なくするためには、国や自治体、消防、警察などの公的機関による救助活動や支援助物資の提供など、公的支援である「公助」とともに、一人ひとりが、自ら災害に備え、自分を守るために取り組む「自助」、地域や近所の人たちで助け合って取り組む「共助」が重要です。



総務課 防災安全係
布施課長補佐